高木家蔵

まうきんす秋ハくもおうわらうふけもほらもく
うまたりあるうりようわむさうもう弁当のうる
不ハいさうひのふきすハあそをくほ魚んけい
とやを加くまりく魚のなう弁心うみおわくうの
魚んちんハ四十りあまほまそお一人をあのまきわ
ふうぬこれをうれちこてに魚く一ましへさん汤う
してやおをういわけるまこふまふじぬびん
にやおりくんとびれを一つたまるると汤むちう
あつて魚んちんれ小めうくやくくいいんちたう
ひろる九月のくほーこをすき十月とやにむまれす
かくてとーほおをふるほとうこ辛三月小そさん

のひかたときたまふはつのくにの
かとよそみえうわけつゝめをハゝひのはりまてお
さうまるゝハゝそのこゝろくゝ少ておくれむうちお
ひそろひのすちかねありくゝとゝくはゝうしてお
そ後一条あわそはなるをむまゝめくと記とゝくゑちう
をつひてをきる後つゝとうさいをきろうと乃まはしてて
あるりぬのうゝをゆかよわおおをさ法をまふふ
おゝやそそうのうゝなゝ後ぬきいうすてよがい
せんとゝ記へハもゝのぎひれあわうゝちよゆんゝん

れ袖よひうわゝりくまゝせ彩くそよらうしゝ七十
祢んうのひゝ母ゝたいあいまゑとわゑんひけしゝ
くなわてまれゝせたまふふとうけたりまいうや竟と
みとせのゝ彩秋をたいなゝいそおくわうるのふ秋
ものをいふこうたうつまふ秋六しゆゆゝやうのう升
ゆかふおりまをすしてきのさきようけしゆら
なうへねとうんまゝ川のちまよやく
一まふしわたりるまふはやうこうあふ
らんゑおかゆ風に法んゝ次ハうんよまゝせ

へうまいるものをぬかく
こうくいい一ねひきを
ふうまくわはこふいやく一まうしのうちみあまそ
こをうやうんをしゆごし一をるうえ七日ほとをう
おくわけるをはうやこうみてうのたふうんとや人
むりしくるうれをみはすをかみ後世か
たいのまをんくおもうおりめにあく一まふし
へまいるまいのられけまハ七日りまんするなうはま
うきのぶくんをうわけこうの山のうさりまる
うちよ一人すておきうわとるまやういくもへうん
しやうはあ人なわともは後世かたいはたひくへ一と

はむほうよあつうんてあくをまちうまえと我
おやくやまへいまうあさをうつみるかさ
うれおさふき人うう称あひうれうたふうん夜
笑むほうよおうをかふはみよそやうくうすす
うえの世もあくもようそうけはめうさちか
うけまうも日をうしをいのはまうものさ
をみえうをけま大ふうんおかきよふうしたたのて
やえてもやく一とりふをはめ我はをてうあいうまおあ
かくてすきりほとふはいまんん
さいたうくきのまれよふひふいまん
ちれるう此ちこせいをうんりしたうひて一をん

十九もとわ巻をとわうとそわうんをまあふ
にくうすたくりんひ
一志川のきんりんくんひ
ろんぶの上まめな枝ゑうわうしちくよせうし
こうあれまわなをはやに
ろやうほろすまいてろ
ほうねのうもをたうくとるをめわこへりまうこへちく
くへゆこいつまのあそ
をろーわうつみし
うふこゑまわなわまろ
せいさうふすせひなう
て一しやくこすんかうねぶちうことを八かくかうよをを
たてくかとくくにやいとをあひれひーをはいた
くとりうせてちくちろつかぬくをもちこゑをやさ
へうををてみうんきうこさうはうせうるをみきの
こわきよあーあつこうたちやうちやくするひとら
にねくしゆかくのきものともにやく一度のてみうまを
きすをはうぬふうわをわもーあの狂こうゑしやう
もちく大おちんよをめんじくれはまま度さうり
およぬのひさ一さうんえ大ーゆことくくくこうちねかー
そせうをろうこされはけまそをノへ南山八一ちこ二
山をれまふ於はこそこそてうあひやへ家は美一度

ほせのちんてうきょうひてい
んをうめみうちんかうえんをおこのいたりひとでう
うまこちまこさうをうしてめてさうほへ表にうえ
かつてましはさすうやまひやせいう色つてあつこう
ちやうちやくみんしやうよおよふうくもあの
すいともかくもあるやしすてにちこたちそのりの
わらんへせにいのあこさひをはけむまれをつうさる
うさわよあへおくもそせうふことも
あわ月を以後たうさんよんさーあよそをおさあえ
その一人あくほするあふへうやくーその二人
よーうんりそせうをむりくちたまふへきういちく

うたはうらいあるへしこ宅とうちんかやされはまい
けいちんの於ふやうしゆ俵をつうもいれあわ勘う
ほまちこを教えれうさへれくわくへとうあ
ちまけるやうくれするをちこのたまりんさー
これたちこそ人りをきをみそい大のまるこまと
をたてくれいうかうか於あれちすちさーあうわま
きくのもかこをしてかちまあくりのさ於ちやう
おませようてそまくくきんをとうぶけいはみちを物かうわ十つ高し
いひいさーうれのもれた守ひけるやうハはあんハ
万るのよさうのちうまーまもせもうんぜたうらいまても

のやくわりひさそまつまた一さんのうせうれ
くみそくへもまの内もふもろくうさりくみもものり
給てしあとの後をもやわらけてそ後おつてまうくん
あるもとおりせそれもちこハきまを安たひてさそ
いそれくをみくろそのたまふうとあくろへてさう
そ一おくれとちもやとおりひてかうか孫をいうう
りちよふこうりあわまれをこさろくきとおりせ
られくハ何のうさうくくろんせひうけたそハ
らんそいひそる芯をせきめんくてたりくる
りちくはくくとあんじめんくをまわねう
ありまるあくきやうふれかさひてこかくれきよも

おより次そは活計いとまりそいくきるの志ふ
のうちにおりふやう日なく本國まわはや海みのかわて八
めそをうおそうわまこうの山ろひさくすみうく
たい小そてうをいてんもろうかんいふ孫うこ城うろ
りやとおもへともうをさうへあひいうこさうこうへハ
いはま方もうへうたちよはへきつくくうのをねん
するふ日本西れ中まおそろくまこみん
もちうすそられうわそ
みやうぶ小そまりまの世は大あこんそそ一字ふ金のし
かうわんふ祝もつくなかみ之とをたのこてうこ
をそりせハ志くやうやまへくあるも

うしはまやとそうだうをとわけてお
にうちまひそれやうそういをうもたんとそう
だんうーてもけまいなうをわの法師これを見てく
なんのにおく一度きうわ約ふうやたうさんをなも
まてりつゑまりしゆつけーたまひけほやらん
あーおそろしやうの人りうこんあひてそかあふ
そやくをーたてくしやうをお法ーまけよくわ
やく一度きたつてもうをあけよとのおくへもねと
するものあーにくきそのふるまひれ一こふう
へえうちくときそみせんうしういをさもたんとう
せつちやうちふんへうーすあけほいねみせんといふ

まーはをおーやわうちへいるてまおくへ人一
にんもあーれのち人をゆふさあうたんを一とき
そうわきやうたうーてそ名をもおうけれはまへ少て
ほくへしふそんうーそ色うすう花を方ふさ
そのそうーくきやうはうとやはくへ家てんちやう坊
そやはくへ家それをあまわこてあうーさいう
のむうーもうといも家へーちくの并心れねんの字を
とわふーやうほなんのけいれ字をとる并なとはくへ
ーさいたうの武蔵坊弁慶なと三度すばこてうう合て
そうも佛の法まへそうういをうもたんねむういやく
せつちやうちうたうしやねんまふこおんちものこの

ういおくくさそろやいなやといひてわきとこへ
てまりをつきやういいのちをそろさぬすゑ
へをといふともゑんけいうあさをあーみくたゑの
をたよろそれかなふまりはかいをはなけゆる
ーろへちうたういとれけいほとのものがいそこ
ハたそろわちやのんういそ女人うちのほろぬこ
うんふ北南山そーゆとくしていうそうはかいをハ
おりすへーこれをさ銚子なわますふこういゑ
すはくりん初んくいんおうをいさうんとたきやう
とうのんおこらんやゑんはけいにおいくおんしゆする
事あふへううすゑういのうちこういをたそろ
ずしくくは佛きろ路とろつういひかつう
こうへもやういもたもちうろそくきやうらいもい
ーて十町もろ明こうろねよもくきのちうきもゑん
かいそて六十あまのこらうろ俗ちやうろんれ衣小せい
かうのけさけふきあさをけえうはよゆきむうふ
をはゑたちもろ袖をひうへてもーやうきまハう浮
ももきろーめーおよひはろんーうるんたせんほらんーうる
ともいうたうさんーれそのにゑくーのようそ

出家仕まそん名をはさいなうの武蔵坊弁慶とやいふ
法師ゆはなうてそんへ共父よりもましやうみもすぐれ
てそうをを一ありさひよりをうひそんといふ一ゆんう
ようすとやされをもんけい史ひそあさ思ひ
もよそうもこふさうおりひようわていうへをといふ
てまうこふかをさそけまそものんうこれをみそ
思せそのとりあひすたいうてそうわるん
思やくくそをふ城うそわう坊へいうせをへ
うをまのうをまいうをんといへ思んけいやう
やうはそうふそたまりうんもなまうそう

そをたうまへとぬれまそ弁ふりうをうそうをうのひさをうめるかとハひさそ
きうるゆんういとおあやうふみえをるうまあこにとをうそはつとのひあるまにくさはそうれふるまひうふゆくそんとふいハゆきやうをさめそきこうおよぬらんうへうさまうしハふのふ弁をうへるうよ为をあさへおひ大うよどむまれをとのはうわよこ城うけてこうもやかによらいやハんしまふおまさまそのすあうこ城を一をりさほとはう程れ大やうおくいのちやをゆへハあるまうこりやにすそ

たんのうおぶち少そうたんとするそときぬきヤ
とそいそなしろをぬうまくわもてこなる小袖をぬき
たまへうれたくちをぬきおへとそくひらつうり
もきなしてわきいしろさこうてはたくちをきそ
ちやうくんの衣よせいうえけさをけぬをなりた
をくれもたカつえうほよくくうの佛をうといふ
あしきとそ吟のていふへきつだんのきおうしそ
いとおわせられいかめられてくへハ分よとつてそ
めんなくなわといひけるうんれうちふおりふやうそ
わさまやうく吟まおとけえたまへ少そちうたうう
いをたも能ろにぬすこうるのゆてはふけまとも
おりせ物をおさへとるハもいをやわうる
まやなんとおりひてかんくほしをくへをきうへを
まふくせんとそひさうまた太くちよ吟後くの小袖城
れきたまへ佐方とヤせハはくそいそう庄捜
ふるいろくし参物をきくへきとの後へもさやう
うおわせら後くへ一かうりんかくをうふひん
おとれく参そのはわきものをあくへうるやうなわ
いくく利をまけてきたまへと吟ふてにらこ佐をうる
まふこうしおそ後きよふるひくそきたひ
をるうんたうをゆうんとはまを太乃へおひいうさ
もわれらうそうふ佐とうゆくはくそみく、

くれもやさうん中そうへはようたうくんそそ
りおのたてくうまわけるちうたうすわもんうい
いよ陵よひしてう色らんとも弥へハすもるくく
あまいとそそうんうふセもやへをはさうんけいくへそそ
をんたちみてあ弥なうしやみうかくのうす
まいつけるをとわもまへ
もの弥そうあゆそうめそうへようくめていろく
乃小袖に記やうもんのひしれきそ弥をこうくん
とみえくれいおひそうひちこよみるやくかやう

のすをやきへ来やうあくうもくるよ日もくるめくほとに
もめんくいれはうへれくわ申でかくまちもの
んうきはくうくはう佛もうをはようくえおき
ヤくみうの衣あるくるわんそもんたうす
海いをてきうけはへしとそのわくるそ色んは
へくつあせその名をとそ
いくさうひをもあてわりてうりき歌かうへ
こはものあくいなうとうまほへしきみわまに
海れほそのあそををまき大乃心をおうてしやう
みうをへくる我くうへのめいちんあうハしゆ

うやまひ天下をたふとび浜のうちまでも
いさうひをせんやはなうちふなでをふあふま
とそこでうのこうちうをかりてまふーるバ
これをう大もんむ祢をわこうのはつうひまそくたち
をゆしやく六すん刀を九ふんおふんれあを一足六
すんのうちうこなあひうへうちてもんこやうをゆし
やうくぬきやうにてそれうーまでくそまおわは
めてそうこせをるきすあひれそう就な拔うせくまけ
ほとうー百日さやかたなちうこまうちうちふをうう
ちいうーけるをおかおかれようろひて出させたまん
はひふそのう事やうこうやてまうこせんそう就
はまてゆきけるうちくにまこせ弥そうちおそ内
くいうまうこをおきそわまそはもんすわうのちう
ひてうりーまるる一日まそともみえす日ハくまぬま
ともの如何よおそはよむ祢をへふわはそふちやを
そうそはうーをや止されいまりうくうやうのまハ
あーとおおせらるひこむ祢ちうひちうく吸くて
うくくそんをーてわうやとへうへまけふ升
のち弁ふ本分ふふハふそくあーうしやうそく
すうをうまうそのうち五条乃高尾花活つそ
うふさいくの止まめあわはまそくせまいらせ

ーやうてそれーぶきやうよあることいよ、
ハを比平安法おりせとい人へもの引にう伝まよおよ
ふへきやうくまやうきわさてなふとうをく
つきうんとひそれいあんけいやくるは上のおかせ
小はたちハ竹よさうくさふいきてよかたん叶のうの
つくわりまつーろ叶みをくらせよとのれまふん
とりへもをすきたのことそこのみのくくに
をくわいさーくるを弁ようろひてみふさ吹くれの
ねさをあひくーてこまつへまいをきるうみち
小そ中世教を此号それうーをよくけりてあいはす
みをもうさふりうめるをくせ来ガんうくくろ

てきやうはヤ法ひよそのうそ被つくんきりくく
法まちくんよそ内へ入よけま日れをあくまてまちの
けまれ乃へうをけまいうめり城こまん屋へ中上
くるうさやうのすかりもすとおりせく
たれそれもちくおるよすみくへくくわみセてうか
号川ー四即庵法吉次とそもまきさいくの止ま
をくる赤へ切兎は刻切うこそうくまさの法法
うひるわは一のひされのもこめんへ家
法ようなわろ吹とれもにとそのくまいらふへー
引出物れすそれうこのまるへーやそ

ゐものゞ用のまへはあわたるかとそゝりのさ
あそんをらんとおりひしーはうせめるすこうあ
しけまとそて大い業をひてそぬるわけるうそぬんけい
ゐくくをおりふやうすそうかけのゐまへそ
たもれこわゐるちうたなうういをやみわぬおこうかさ
まそれさうはとくにんれもとへゆきたゝをひ
ゐ三人のものもまさてまうをとゝせそやそそのの
ろもふへそんそのせうとそ京の中りあゝひ
ふれふんそんのものとさこえそれいうまうをへゆ
うんそそ武蔵とめうえ日れーやうそくはいくたんの
りゝまさ行うのこておるあーさすふおそよ太分ゝふ
くーふきあさへはよりふの方をえもとせハ
たいおくともうへおきやゝひまおくあけ四町まち
ま大かわをかわらんくいさろをさひよけてあろう
すナ人ふそろうのかわゆそやうちやうをとゝ
のへもせんのすあゝハゐことみようりそんと
わまをくとふこゐそわまれ弁当人をえとせおも
りまそんーゆうけいこのものもめをけすん
のうちへなんないまもおより次るまゝりゆなの
ちらはをもつくゝさあゆそひゐろんりちうはをハ
ていーゆのり毛むゝさかちとかそせいうう
れ大ちにこう孫はそわのうふまへさうわにさ

あしもうまれにうふとあひうんへこもたうをうえ
いろくやうさうのおたはくあいどしうそふ〳〵へうえ
のこうるとおりくそてうしさうはさるまちくし
家やこらうとうをすんこもやうむくたなとをさせ
はくふくふある所へ魚んけいたうふそれれ
をんちくようわくまをさんけいのものきやうもやなな
らうまいふつきてはくくうへつあけてうひうんとよ
り長これ城きておかれはりくをたてこそ川のうり
ものきやうもやたうちんあれなうれ後もをきけさ
をうけてまうとふうへ添をあくむろうなまひやう
をもちやくく前一いつとうこうめくきふ秋川のほま

秋う虻うふなりれたくひとおかゆ添そわうたうも
あれのくこれやいふ弁当なそあさせんもの
うめたうそくのひようはうけこうはにくくれいくく
うえれ物見をんとういふまうあ小ちんへおとわあ添先
をみそゆきうするに久んとすする所をけいとまわてゆき
う春うううこうをみしとわりつれは小うぬきうう
久んはしやくたすんはたちまそくびをふたるやうな
しせはこはくつうりこ添くをしくいねもき
うるちものもめくをあうわうんとそた刀れきうされ
まわつもをまそひなあそくくちけふほとよ明春
ハい業ちくちハふるをくわをナ人のわうそうれさ

うしろうなるかよくみたまへといふに、
はうこらへう孫てまつひける弁ハちやうたいまて
をんとおもひくたをんよまうをうけあふきをそ〳〵ち
つひるうみもくさとふくさすわうへて
ゑやうしとるまとやうをこうさひけま一ごそうう
とおもへともこのせいかとをふきものをゑいくハ
もまれゆめまものうへにおくつ亜の風まつほとのい
のちそ伊とそたう〳〵をおう〳〵むらんとかまう記ん
のこゑをもつてうとひすまてこかようもう
ちうちやそわまて〳〵せんせのおもめくえんゆそうん
ちやうはうとくのかとなるわられたはうをするぜんち

しきおりまあにゆるこれはおとけれはう
ゑんそて亜ちやうてんゆんれうきせをもつせ給ふ
おかゆ風ふわたうハなふをうめさるへ家うけた守
ちつてまゆ〳〵をんと沙ふ弁ゑ変てうろひ女そうハ
おとこみも風さわるせんにんとおりひあ〳〵もつ
〳〵やとおもひなう〳〵やけるすふ飛もたの
らをゑもてんつやうをヤへしといへそくらを
あけさせうすくれたうをみをくるよ金きん亜い
をんそや海のこくゆきふ矢太分うさふそのかうまき
そのあやみ〳〵きねうのくふ事ハなう〳〵佛これ
み次弟うまいらせんをいふ亜んけいをと

よくもんハなし　おくのうこあわもの
袖三十人　してそろへたるへしといふれて
女房これをきてあうほとにうとくもうおりせらるけるう
さほとやすきれのうこうやたうこおりせうへも范
の一つもめさふへそんしさふふにいそきと
のへみんうくうもにやはくほんけいをうけとわ
へそれかわるもをナ人はくうのさいく
三人うふさへおくわをるおもひはりのうる秋そ
さいくのそとうくのせとうくのうもおより次も

いうとおそ旅しはよせきめんしてうのうわるう
くて弁ハくまをうんけいとんけ出るう日られ
けまハあるふるたうれ大あるみたちよわて佛たんの
ちこに入せんこをちうをわ秋まちわ
のまあるよ人れこふちれハみくにおりひみく
をうもたてきけるうぬす人ともうあつまわて
ちうこそれ秋うちかうたうざんうくいそく
乃物かうわをしちめうんをとうの人ぬうをるう
ゆももわとなしきめうのもるハうんやれる
あひいうふさめたまうをせんふきうけをすして
ふたのうりめんくうはあしをむ

ふみてんにまゐることやひうふだんさ
ん次ハまいをらうハまたちまんうふやせ
うの一せをひなかうのいちゆそしろうへ孫ハ
さいをはゐとそくをこはへ家とるあうしそ
やけまてほなほうのこれをきてむまそしはそれう
おりひまわるとぜををやへうまうまとやせまそ
ふへれくんそのせうをとかるたうハやはそ
あるへうすうしようちなをふそあつうたう
をとるのこうんハむ孫んなわ大せんりとわわめて
記やうをを私うこよかくおきし一度うり四方ま
をしてせめやふうんするあんれうちなわとそ

一男とまちんしてさうをあすハうつちくふせい
をそろへ記つしのこくうし坂下ますへしとさて
めそみふたいうんするを弁ふやて大にうろこひくん
もうおんをなふとしてうおくほへきとおりふこう孫
うう孫うふのさいわ井とそやうくくんうをへ
そゆきくわいまこ汚うてんのるふ孫ハんしゆう
はふれうかとあけよとてあけうせてしゆてんをう
てもりくれてていもの安てあへおさまこハ
法方あるうやいうくをんとふるひける女そうれを
きてふかくなわそよきをめてそけき人をいようりて
あせそう色ってちうをふすなひわろつう

ほうせたまへとそやうそ
しいまーゆをんをすめけるのもんけいい
まるふそはきめををぬとそみつぜんにあてて法花
きやうをとくーゆするをすわおんきよくーつうき
わめされもきくはんをたえかう女房もおまも
りうおみわうなうまもいまてはおふたはうとを
うまーしうきやうをちやうもんーてうほちーき
法あるそとそうんはいきもかめいーけつさ原ほと
てくんもうもちへ坂ーよするおまうとなつぬまは
くだうばちわおわせそ大せいをそつてせもるなわ
とおおさけ奴なひとちう家あるわのその一人も出
あり次くんもうたちをこへ三色よるまりとれ
をとつとそあけうわをつわていもものそつてのかうう
きやうてんーてきもたる守ーぬをみりうり次さわ
なるーり玉をくつきやうれようういふ坂もんを
うーうとめちう取くせめあへ家やうをなーくんも
うらうとふやくへりーつをあうる矢たりまさうん
くまいうわけうと弁まいはうまてきてうるれおまそ
わとふくへ家ももあうすは花八くりんかりをけまい
をとれこくくまきあくしてーけーぬすいきろやと
とうれうまそいりんやこちろ取くーみろせうふ

北大二

ゝくはこれきやうのくわ
そのともゆつあくゝゆうんせうかたいとふう
ゝて月もはゝきそのうるうきおかせい
ゆそせめゝれいたものうちれゝのもんきかみえ
けまをはゆきまゝれあゝくゝ女もうゆんけいうまんへよ
ひさまほまをありせ此すけんいくたまいまとや
大もた刀うふちうわゝ方をきろ
とゝまゝゝゝやうみうれそのせうふきけ
もんをゝれそゝひゝゝせうゆへ引いまてそのの
ん
うやうにちゝうつてもんをひふむきろていくゝ
うひけまそゝきうろゝひて一ふよなわてせめう
ふをゝもてをゝひきいきんとのふくおまは
ろひゝするやうはちゝすしゝゝてくつきやうのむゝや
三百よ人きろうゝをそろへせめいをゝるすてうた
みをゝゝてれれるゝ力うこの勢ばやすゝたまんへは
法師うあゝゝわをんゝそふきあゝふぶうちをはたて
おきて三ゝんわうわはあけゝゝれあゝけくわゝて
おさうるをうわのへてすそを一度ううつとゝうへ
いゝきむちやを十人うゝとれける三ゝともひけゝ

ちまちまち小あきうりてまわりをうちたらが
んしーちんちやうにしてみうるをの百七十人小
ぬまをおかもん小門よりまわおかるものもをいおひ
つめ三十にんうちとくむる九町七ちやうまけのひて
すうるものすをもうすあ方へ参ようりう
うそこそろてそうふほとにまおひもなうわくわそ
のちり来たるしく女をかりそ乃こらうとうもまわ
おつまわ弁当をこれはいかうけうよう事まそて
あるまりそをあをせらいとするさるほとみ弁
当やう先度三十人ぬみんぬかりさせたりまうる
小油をこのそのたうをそく太刀刀けうつまやうすれ
ハさのまたうわいまりきとそやうくるねゆきそおか
りそき上ればた守ひて小松屋へおみせありけられよと
やきれいねんけいうおうへりもうひ京とんへ
やあけはまそおんれもくこまつのきうのてて
大まうん下したまひそうやうちんびようふをと
て法ちまやうをくさされいよくんちやうまけるる
となわを後武蔵坊くま弁慶へうんけいをまり思ひうる
まわいさういゆきやうにいくりけるおくろを
うり下をわやうくろちせんれ平泉寺へあわ佛せんよ
ちりーおんーゆーてたんするふものをわはたうる
やうなるうふきなわりーみちふそなふうむー

うるうとしろくくあんじ
ふくくおりへいこれこ三日いさうひをすゝて
とせんあるうちまゐさうもいさうをゝて
おもけりわかりにへゝそる中をあわきまハ
ぬともふうへきあひてもあゝあるむうへたちいるまて
乃けまてもちて大もものもう我さやうひまわみまれもうす
まてふこのうわ在上ゐはまものゐんのていなわてい上
ゐはまわををるうの中もゐんけいうあひてよと
おりゝしきものをおけまれくふいさういをすい
いくあるへ条とおりひそわそうりて弁まうきの
大せいあふをうろひてかもんまわ内へすいうんゝて

物中ゝんといへハ何すうとこゝへくるまこゝハ
いよへ来るすりふれハ此もうぶちのけさせたまふ
そのはのといふ物うとやけまを記とくくまわをハ
けすゝておこう海しをうちそうひこれハ物をそわ
うるをれいまわといふうこゝへけまも弁まけこと
そうとわはなすくみようわてやうそぬその事
そうそうひやせあうれしやハ海ゝうよくうけた
りまてくへまわとやをのそはほうたちをうゝうう
よくそいとへもしぬとハ人ゝそうをたてゝけう
うはハ海乃ちとをかふとひけまハゐんけいおゝ
ハよやうはおうしうひう用をひうゝ又をまら

じそくまをもうしらをむあ
うやうもるそこうそのハ
へしといひてたくちをあきそわひられもわき
大きも大りい茅とぜうくさくもその兄をんそを
おちらんすわもうまあうわめんくりたちも大分
ハさやをもつわきさきにとうくまうれも弁ハ
うろひはこふ佛神のはうらひゆそふのかく
さこまふけうあうりさいけれ仕坊さちやもうハ不
せハうてて行をとうふ底へうすともそく少良
あやうちもさまふあよこあさへ出さをたまんへそ大
みまうて出るうこうしわよこふえをうわいう

ものゝ
をさん小へ申へくしとは
そのうへおうまはきうん
なーとそ申いせんしを
ゐりさうひのかといくく
みゆへくうけるうを
さんへまわりぜんまそし
おんきまいちもんのごもや
をおういとたもちうかを
くをつをとくのんてこ
くいえ理をもて浜小

うわうんろふーてあわ
茶法師うおとしゆとみおう
をるそさいたう乃武蔵坊弁
うのときくにるかぬんお
をおーるふきちよ
ゐくーとゆみある人ヤ
かふすをんもいすに大
うーとゆりやんけいそ
うおよひまさ大ゆ
ゐくそみわてんよ
そやくむうにおさけ

大しゆめく〳〵そんしやうきこゑ
をうひわけふさそいはきやくそうしゆきやう
のわきをもんとそきをう偽もきやうもやを一〳〵
にうめてかうたうのまへみひよすへうわ弁ゑハ仲
せんにけともめしものぬうたんはしやうく〳〵そわおし
ぬとそおひの中よわくたんはしやうく〳〵そわおし
かちんのひうまをきくとぢをけふふうをきくろ
いものもまたこそすふふりふぶちすしまさ
のたちをつきうちうくさふふりふぶちすしまさ
うへゆんてのわきうわをうてめそれわき
小ゑ大勾ういふてたをもき大ちゆれ中へ

おとわなゑ方をんぬりあ〳〵おひうう一大しゆ
やとひてううめおきへうるしゆきやうしやともをく
なんのうちうさふねきこ一〳〵りふをきわてうふ百
うれのちをんけいきふをたて大しゆたちを
もうたとにらんてたうさんはしてくおうちゆかくのんあ一ふ廿ます
まれちめりちやうりかあ一けまふ亜さんかうと
とあへを二まふいちまそたつうわけるをはちやうう
一のてうんおん方めうう一ゆんといふ人むくらんち
ひれまれりもあきれうろひきそこふかい
ぶとのおをちめ三足一ふんりのをくわり

もさんてうふとくかぶちぬ一度ふうとうちいわ
せうきのをとうふとい
ね一とふちふたあこのそやもつーきつさをそろへてきつかうふ弁まやうちこうーとうきよくいひて二人のうふとくをちさたのうちあわせけまとみちんにくさけてちふりをわけいいきわあてら称いてもをはすあうる矢をさきうきうまたふまたうすうのちたちをぬきせんこうをさうとめそ一もうへおひむけきつて

まうるなのさたちまちむ孫との大よゆめナよ人まわ
ぬせて大せいを東西へまつとおひふしぬんけいありにあるかとおりへいぬけつをくつをんこうをひめくなほとりいる矢もあさらすをつく大ゆおかくいう旅さふくさ中そにまの風ふまわふきあけてうたうへまあけあけうるりえくいちまちやをあうれいしゆとれを見てなのなさまきふう旅ちをわうさせそ十方へりつるる弁ふれをみそもんせんさて出をるうたちうわやふらんみつうもうふたまふふしゆとのあくこうをいさ旅をくうこと

高木家藏

110 X
461
2